

トルコ為替週報

2023年7月18日 | みずほ銀行欧州資金部

＜過去1週間の動き＞

(7月11日～7月16日)

USD/TRY: 25.9793～26.3639

TRY/JPY: 5.25～5.42 (参照値)

過去1週間のトルコ・リラは対ドルでじりじりと下落が続いている。為替市場全体では7月12日に公表された米6月CPIが市場予想を下回ったことを受けて米ドルが下落してただけに、リラの弱さが目立った格好だ。財政・金融政策の両面で正統派の政策運営への転換は進んでいるものの、リラの積極的な押し上げにつながるほどの資金流入の回復にはまだつながっていない。

トルコ与党・政府は相次いで増税を発表している。7月7日に実施された付加価値税(VAT)の2%ポイントの引き上げに引き続き、7月16日には燃料税を約3倍に引き上げている。税額はガソリンで1リットル当たり2.52リラから7.52リラに、軽油で2.05リラから7.05リラに引き上げられた。今回の一連の増税によりVAT込みのガソリン及びディーゼルの小売価格は約20%の上昇が見込まれている。これだけの大幅な燃料価格の引き上げは、マクロ経済的にもインパクトが大きい。直接的には、CPIの押し上げ効果を意識する必要があるだろう。例えば、自動車燃料はCPIのバスケットの3.8%を占めており、自動車燃料の価格の20%の上昇は、CPIを0.76%ポイント押し上げる計算となる(3.8%×20%)。7月14日に公表されたトルコ中央銀行(TCMB)による民間エコノミスト調査では、2023年末のCPIの予測中央値が6月調査の38.6%から43.8%に引き上げられているが、これは、リラ安・賃金上昇に加え、VATを始めとする増税の影響を加味したものであろう。一方、燃料価格の引き上げは、税収の改善、及び、燃料の輸入抑制に伴う経常収支の改善につながる効果も期待される。7月14日には法人税を現行の20%から25%に、銀行と金融機関については25%から30%に引き上げる与党案が議会で賛成多数で可決しており、トルコは財政規律を重視する方向に政策は転換している。2月の大地震の復興費用や、5月に選挙をにらんで政府が実施した天然ガスの無料化により財政赤字は拡大してただけに、財政への信認を回復するためには必要な措置であろう。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
7/11	08:00	経常収支(USD)	5月	-7.40b	-7.93b	-5.42b
7/12	08:00	鉱工業生産(前年比)	5月	0.8%	-0.2%	-1.2%
7/14	08:00	12か月後インフレ期待	7月		33.21%	30.65%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう2週間の見通し＞

(7月17日～7月31日)

USD/TRY: 22.00～27.00

TRY/JPY: 5.10～6.30

今後2週間のリラは横ばい～やや持ち直す展開を予想。株式市場への資金流入拡大など、総選挙後の金融・財政政策の改革の方向性に対し、前向きな反応も見られている。エルドアン大統領も、7月17日から19日にかけてサウジアラビア、カタール、UAEを歴訪し投資拡大を呼びかける構えだ。湾岸諸国からの投資呼び込みのためにも、経済改革路線は当面は継続する可能性が高いように思われる。当面の焦点は7月20日に控えるTCMBの次回金融政策決定会合となる。前回6月22日の会合では6.50%ポイントの大幅利上げにも関わらず市場は大幅なリラ安で反応する結果となった。リラ安・賃金の大幅上昇、というインフレ加速要因を考慮すれば、TCMBが大幅利上げを継続する可能性は高い。ブルームバーグ集計の市場予想中央値は7月17日時点で3.25%ポイントの追加利上げ(政策金利を18.25%に)となっているが、右図にある通り、市場予想はばらつきが大きいことは意識する必要があるだろう。それでも、今会合では19～20%への政策金利への引き上げとなれば、市場の失望売りにつながる可能性は低いと見ている。一方、前会合の声明文・議事録では政策金利をどこまで引き上げるのかというコミットメントが弱いと感じられたため、今会合では踏み込んだ説明が見られるかに注目したい。

＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
7/20	12:00	政策金利発表		18.25%		15%
7/28	08:00	貿易収支(USD)	7月			-12.53b
7/31	09:00	外国人観光客(前年比)	7月			16.2%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

トルコ・リラの推移

実線: 対ドルレート(左軸、逆目盛)

点線: 対円レート(右軸)

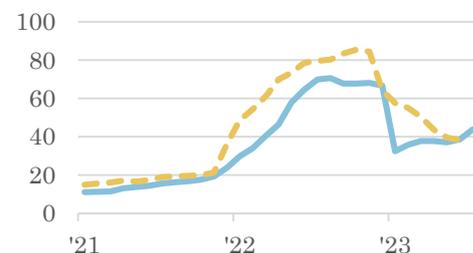


トルコ中銀公表 民間エコノミストCPI予測

実線: 予測中央値(2023年末)

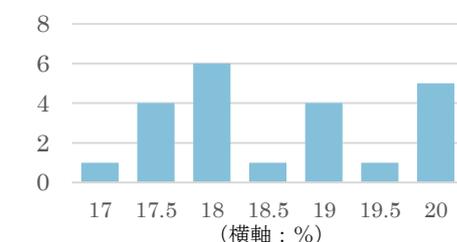
点線: 実績

(前年比%)



トルコ中央銀行7月会合 利上げ後の政策金利予想 (ブルームバーグ集計)

(人数)



注: 調査当時、15.00%の1週間物レポレートが何%に引き上げられるかについて、22名のエコノミストの予想の分布を示している。2023年7月17日朝時点。

(資料: トルコ統計局、ブルームバーグ)

＜文責＞

欧州資金部

シニア為替ストラテジスト

中島 将行

masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

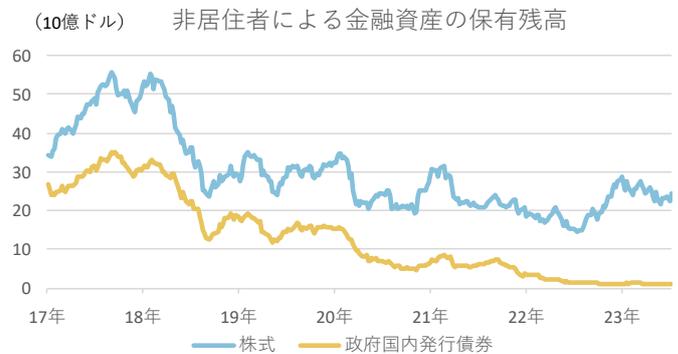
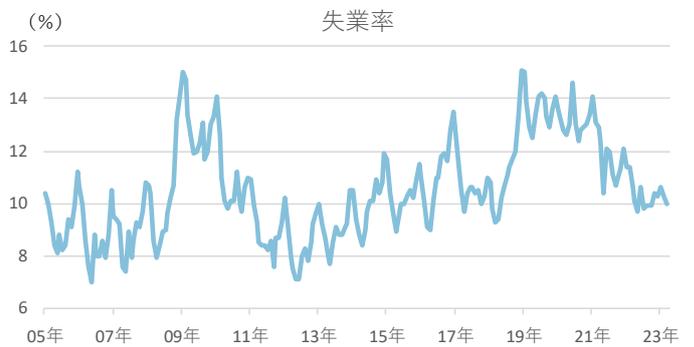
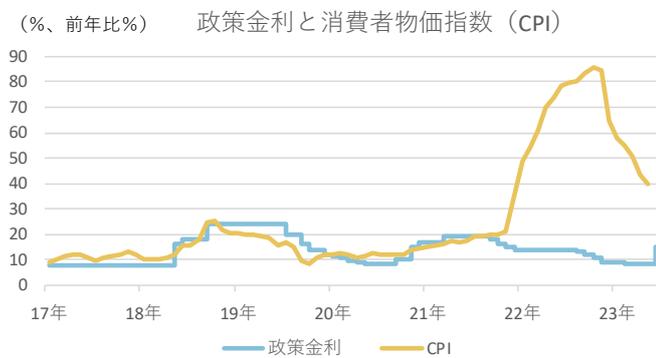
筆者休暇につき、来週は休刊します。

次回発行は8月1日の予定です。

トルコ為替週報

2023年7月18日 | みずほ銀行欧州資金部

<主要経済指標の推移>



(資料：トルコ中央銀行/トルコ統計局/ブルームバーグ/みずほ銀行)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。